

# 農村環境の整備・住いの改善

現在、農村では嫁不足の問題が深刻化している。これにはいろいろな原因が考えられる。所得の低さ、重労働、農村、農家の生活環境のおくれ等経済的な側面のほか、特に若い人が耐え得ない問題として、古い因襲による人間関係がある。このような農村社会の近代化が、経済面の近代化とともに必要である。従って、これが対策として、近代的な家族関係を促進しながら、農事放送施設の整備、農村道路網の整備、農村社会文化施設の整備、山村振興対策、農山漁村振興（同和対策）事業、農山漁村電気事業等、各般の農村環境の整備を推進しているが、ここでは、特に家族生活の近代化を推進するための「住居と住い方」の改善について詳述する。

## せまられる住いの改善

農業従事者の生活水準は漸次向上しつつあるが、依然として農家生活の面に解決を要する問題は多い。特に最近農村青少年の都市への流出が深刻な問題となっているが、その原因の一つとして農家生活の環境の未整備があげられている。

昭和四〇年六月生活改善実行グループ全国連絡会調査による資料によれば何らかの修理を必要とする農家が全体の六七

%を占めており、これは全国平均六二%を五%も上廻っている。

又農家住宅はほとんど持家で、面積はかなり広く平均三五坪で部屋数は五室、畳敷三〇・八帖、このうち寝室は一七・〇帖で半分しか使われてない、現在最も問題とされている個室化の状態は（図参照）全国に比べかなり立ちおかれている。

農家住宅が都市住宅と基本的に異なる点は、都市住宅が休養本位であるのに対して、休養と生産の場を兼ねている点である。この場合、養蚕、煙草乾燥、選別、貯蔵、農作物調整収納等の目的で使用されている場合が多い。この費用に使用される部分が生活面とはっきり仕切られず、混然として使用され、時には生活自体が農業生産のため追いやられて隅の方で暮らしているといった農家が未だ四七%もあり、又住居そのものは広いが、押入戸棚等、整理格納する場所は少く七八%の農家が寝具を格納する場所の不足を訴えている。

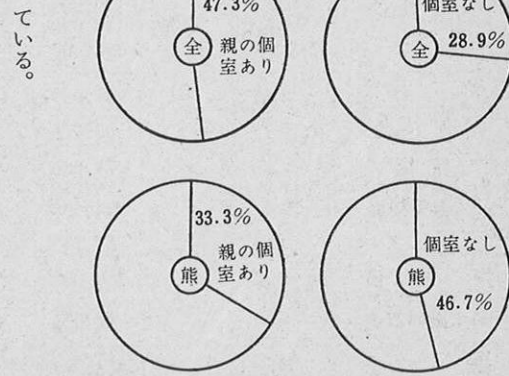
台所の設備については、部分改善が進み九六%の家に立流しが普及して居り、給水施設についても上水道、簡易水道、電気井戸ポンプ等の普及によって井戸水の使用は僅かに一三%に過ぎない。しか

し、汚水の処理等環境衛生をよくする需要を大いに感じている農家は九〇%、いくらか感じている農家一〇%と一〇〇%の農家が必要を認めている。農家住宅に対する意見のうち不満の理由としては、古い二五%不便二四%個室がない三二%広すぎる一一%部屋が不足一八%その他四%となっており、今後の農家住宅改善の方向を示していると言える。

## 住宅改善の動き

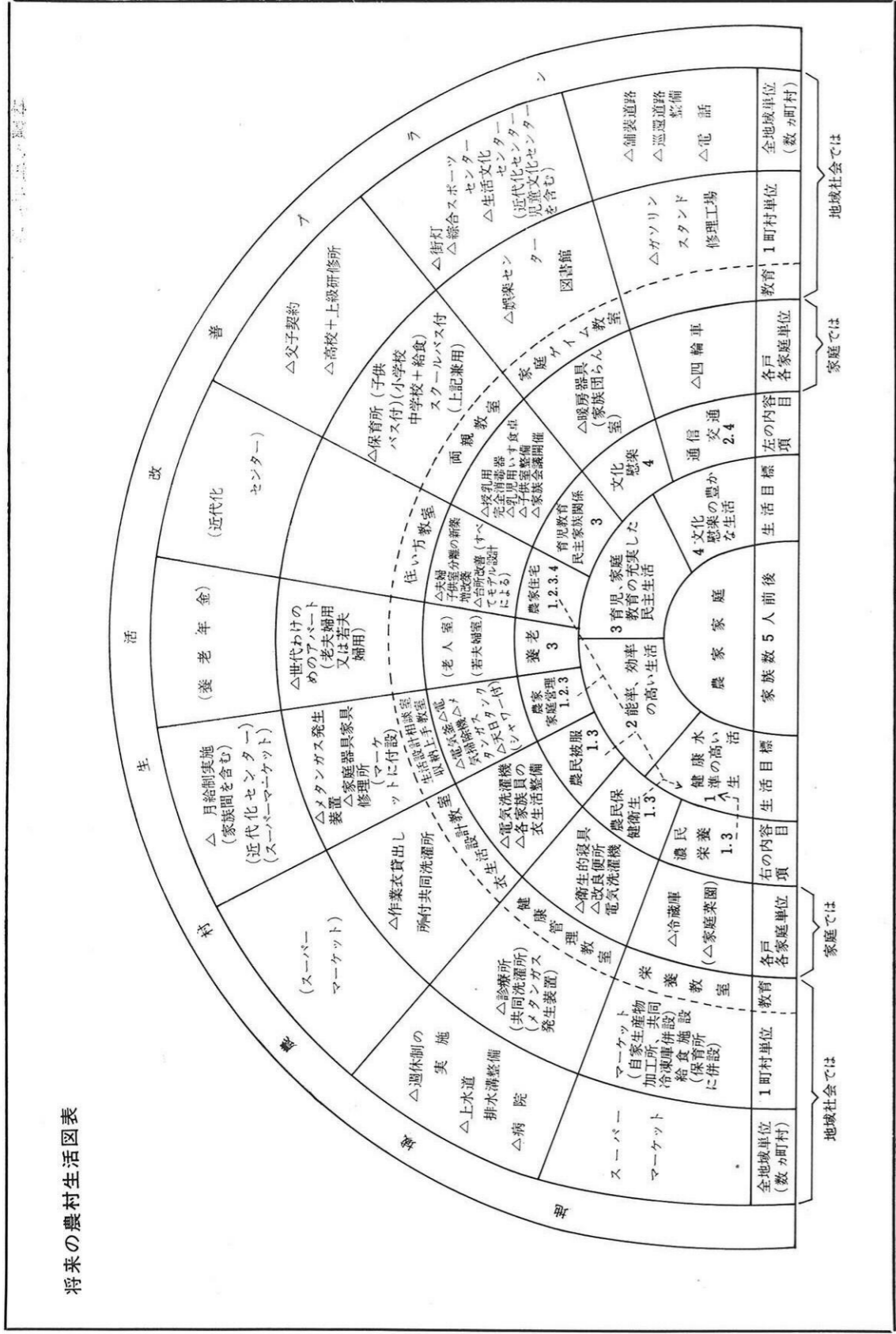
これまで述べたように、農家住宅の改善希望を充すには多額の経費が必要となるが、昭和三年農業改良普及事業が始まってから生活改良普及員の援助により農家が、農家自身の問題として改善をすすめ、又昭和三九年政令一四八号により創設された農家生活改善資金は、それまで何ら資金的裏付けのなかったため、伸びやんでいった改善農家の意欲の誘い水となっている。

今年度からは、更に新しく農山漁村生活環境整備特別事業が開始され、知識技術者及び生活改良普及員等により巡回相談指導を実施して生活環境の近代化を推進し農業後継者の確保に資することとし



## 将来の地域農村生活

次頁に掲げた図は将来の農村集落は、「このようであつたら」という姿を图示したものであるが、若者にも農村生活に魅力があり、娘も希望をもって嫁いでくるような農村を実現するためには農業経営の規模拡大、単一化、省力化等に負うところが大きいであろうが、更に個人の住いの整備は勿論、加えてその地域の部落なり村なりの計画的長期的な施設の改善整備がなければ、図にあるような円い形での集落の理想像の実現は望めないのではなからうか。個人個人の生活環境に対する積極的な関心と熱意がやがてこのような村造りの基礎となるのである。



将来の農村生活図表